令和元年度県政世論調査結果 (高齢者の保健福祉に関する部分のみ抜粋)

調査の概要

1. 調査目的

県政の諸問題について、県民の意見や要望等を把握し、今後の施策立案に際しての基礎資料と することを目的とする。

2. 調査項目

- (1) 人権問題について
- (2) 環境施策について
- (3) 食習慣・生活習慣について
- (4) 高齢者の保健福祉について
- (5) 県公式ホームページについて
- (6)県政の重要度と満足度について

3. 調査設計

(1)	調査地域	香川県全域
(2)	調査対象	満18歳以上の県民
(3)	標本数	3, 000
(4)	抽出方法	層化二段無作為抽出法
(5)	調査方法	郵送法
(6)	調査時期	令和元年5月27日~6月17日

4. 回収状況

(1)	標本数	З,	000		
(2)	有効回収数	1,	$5 \ 3 \ 0$	(51.	0%)

5. サンプル設計

- (1)母集団 香川県内の市町に居住する満18歳以上の県民
- (2)標本数 3,000
- (3) 地点数 150 地点(市部:126 地点、町部:24 地点)
- (4) 抽出方法 層化二段無作為抽出法

【層化】

県内の市町(8市9町)を次のように5圏域に分類した。

圏域名	構成市町
1 高松圏域	高松市·三木町·直島町·綾川町
2 東讃圏域	さぬき市・東かがわ市
3 小豆圏域	土庄町・小豆島町
4 中讃圏域	丸亀市・坂出市・善通寺市・宇多津町・琴平町・多度津町・まんのう町
5 西讃圏域	観音寺市·三豊市

さらに、各圏域内を市町の規模によって、

①高松市 ②高松市以外の市 ③町 に分類して、それぞれを層とした。

【 標本数の配分 】

各層における母集団数(平成31年3月1日現在の選挙人名簿登録者数)の大きさにより、 3,000の標本数を比例配分した。

【抽出】

①第1次抽出単位となる調査地点として、平成31年3月1日現在の投票区を使用した。②調査地点数については、1調査地点あたりの標本数が20前後になるように、各層に割り当

てられた標本数から算出して決定した。

③調査地点の抽出は、調査地点数が2地点以上割り当てられた層については、

を算出し、等間隔抽出法により該当番目が含まれる投票区を抽出した。

④抽出に際しての各層内における市町の配列順序は、総務省設定の市町村コードに従った。

⑤調査地点における対象者の抽出は、調査地点(投票区)内から選挙人名簿によって等間隔抽 出法で抽出した。

⑥以上の結果、圏域別・市町規模別における標本数・調査地点数は次のとおりである。

ľ	圈域別·市町規模別	標本数および調査地点数】	上段:母集団数	下段:標本数、()内は調査地点数
---	-----------	--------------	---------	------------------

圏域	市町別	高松市	高松市以外の市	町	計
1	高松圏域	354,420 1,289 (64)		46,933 171 (9)	401,353 1,460 (73)
2	東讃圏域		69,351 252 (13)		69,351 252 (13)
3	小豆圏域			25,261 92 (4)	25,261 92 (4)
4	中讃圏域		164,607 599 (30)	57,464 209 (11)	222,071 808 (41)
5	西讃圏域		106,667 388 (19)		106,667 388 (19)

6. 集計·分析方法

集計・分析にあたり、回答者の年齢階層の偏りを補正し、年齢別の集計ウェイトを乗じて標本 数を規正(ウェイトバック集計)した。ウェイトバック集計した値は、この規正した標本数を基 に回答者の割合(百分比%)等を算出している。なお、規正した標本数は、乗算結果の小数点以 下第1位を四捨五入しているため、総数と内訳の計が一致しない場合がある。

	推定母	日集団	有効回	左膝占于人人	
年齡区分	実数(人)	構成比(%) A	実数(人)	構成比(%) B	年齢ウェイト (A/B)
18~19 歳	19,015	2.4	14	0.9	2.553
20~29 歳	76,613	9.6	74	4.9	1.946
30~39 歳	99,955	12.5	162	10.8	1.160
40~49 歳	133,871	16.8	247	16.5	1.019
50~59 歳	111,524	14.0	249	16.6	0.842
60~69 歳	137,222	17.2	363	24.2	0.711
70 歳以上	219,311	27.5	390	26.0	1.057
合計	797,511	100.0	1,499	100.0	_

※1) 推定母集団は平成 30 年 10 月時点

※2)構成比は小数点以下第2位を四捨五入しているため、合計と内訳の計が一致しない場合がある。

※3)年齢ウェイトは小数点以下を含んだ各構成比から算出しており、小数点以下第2位を四捨五入し た各構成比から算出したカッコ内の数値とは一致しない。

7. 報告書の見方

- (1)回答の比率は、その設問の回答者数を基数として算出し、少数第2位を四捨五入した。 このために、百分比の合計が100.0%にならないことがある。
- (2) 複数回答の設問の場合、回答は選択肢の有効回答数に対し、それぞれの割合を示している。このために、その比率の合計が100.0%を超える場合がある。
- (3) 図表中の選択肢表記は、語句を短縮・簡略化している場合がある。また、設問で回答が なかった選択肢について、図中の比率表記(0.0%)を省略している。
- (4)本文、図表、集計表に用いた符号等の意味は次のとおりである。N:質問に対する回答者数で、100%が何人の回答に相当するかを示す比率算出の基数

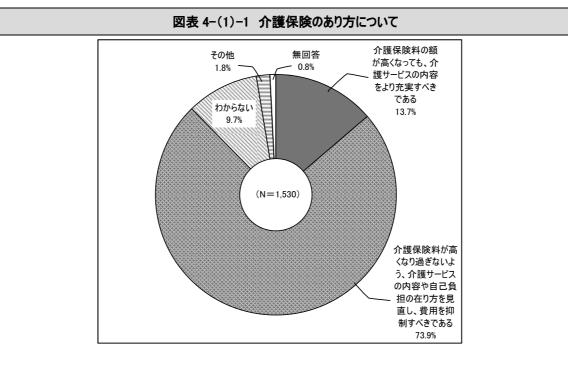
4. 高齢者の保健福祉について

(1)介護保険のあり方について

問28 グ	↑護サービスを利用する人が増えたり、1人あたりのサービス利用額が増	えたりすると、各市
町に	こおいて、3年ごとに定める介護保険料の額は高くなる仕組みになってい	ます。このことを踏
まえ	たうえで、介護保険のあり方について、あなたの考え方に最も近いもの	を、次の中から1つ
だけ	†選んでください。	
	※()内の割合はウェイ	イトバックした値
[[回答者数=1,530】	
1	介護保険料の額が高くなっても、介護サービスの内容をより充実すべき	である
		13.7%(13.9%)
2	介護保険料が高くなり過ぎないよう、介護サービスの内容や自己負担の)
	在り方を見直し、費用を抑制すべきである	73.9%(73.3%)
3	わからない	9.7% (10.1%)
4	その他	1.8%(1.9%)
(魚	無回答)	0.8%(0.8%)
4	その他	1.8%(1.9%)

介護保険のあり方について、「介護保険料が高くなり過ぎないよう、介護サービスの内容や自己 負担の在り方を見直し、費用を抑制すべきである」73.9%が最も高く、次いで「介護保険料の額 が高くなっても、介護サービスの内容をより充実すべきである」13.7%、「わからない」9.7%な どとなっている。

ウェイトバック集計した値をみると、「介護保険料が高くなり過ぎないよう、介護サービスの内 容や自己負担の在り方を見直し、費用を抑制すべきである」73.3%が最も高く、次いで「介護保 険料の額が高くなっても、介護サービスの内容をより充実すべきである」13.9%、「わからない」 10.1%などとなっている。



介護保険のあり方について、

性別にみると、男女とも「介護保険料が高くなり過ぎないよう、介護サービスの内容や自己負担の在り方を見直し、費用を抑制すべきである」が最も高く、『男性』72.9%、『女性』75.0%で、これに「介護保険料の額が高くなっても、介護サービスの内容をより充実すべきである」が『男性』14.6%、『女性』12.7%で続いている。

年齢別にみると、いずれも「介護保険料が高くなり過ぎないよう、介護サービスの内容や自己 負担の在り方を見直し、費用を抑制すべきである」が6~7割台と最も高く、これに『18~19歳』 では「介護保険料の額が高くなっても、介護サービスの内容をより充実すべきである」、「わから ない」が、そのほかの年齢では「介護保険料の額が高くなっても、介護サービスの内容をより充 実すべきである」が続いている。

職業別にみると、いずれも「介護保険料が高くなり過ぎないよう、介護サービスの内容や自己 負担の在り方を見直し、費用を抑制すべきである」が6~8割台と最も高く、これに『主婦・主 夫』では「わからない」が、そのほかの職業では「介護保険料の額が高くなっても、介護サービ スの内容をより充実すべきである」が続いている。

圏域別にみると、いずれも「介護保険料が高くなり過ぎないよう、介護サービスの内容や自己 負担の在り方を見直し、費用を抑制すべきである」が7割台と最も高く、これに「介護保険料の 額が高くなっても、介護サービスの内容をより充実すべきである」が続いている。

居住年数別にみると、いずれも「介護保険料が高くなり過ぎないよう、介護サービスの内容や 自己負担の在り方を見直し、費用を抑制すべきである」が6~7割台と最も高く、これに『3年 未満』では「わからない」が、そのほかの居住年数では「介護保険料の額が高くなっても、介護 サービスの内容をより充実すべきである」が続いている。

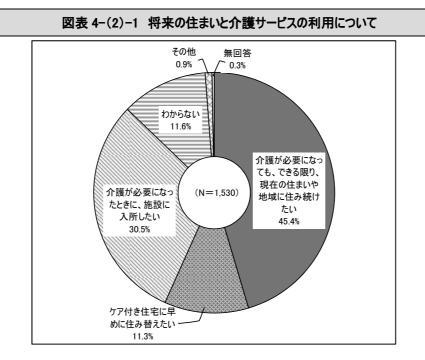
		図表 4	4-(1)-2【介護保険のあり)方について】		
		(1)充実すべきであるり充実すべきである、介護サービスの内容をよう酸保険料の額が高くなって	(2) (3) し、費用を抑制すべきである 介護保険料が高くなり過ぎな の内容	(4) そ の 他	無回答	
	凡例					回答数
	全体	13.7	73.9		9.7 0.	.8 1,530 人
性	男性	14.6	72.9		9.1 1.	1 701 人
別	女性	12.7	75.0		10.3	.6 797 人
	18~19歳	14.3	71.4		14.3	14 人
	20~29歳	18.9	63.5		14.9 2.1	7 74 人
Æ	30~39歳	16.7	70.4		11.1	9 162 人
年 齢 別	40~49歳	13.4	71.7		10.5 0.8	8 247 人
וית	50~59歳	14.9	71.5		11.2 0.8	8 249 人
	60~69歳	13.5	76.3		8.0	4 363 人
	70歳以上	10.8	78.5		8.2	0 390 人
	農林漁業	14.0	81.4		4.7	86 人
Tr.4.6.	商工業、サービス業、 自由業など	14.4	69.3		11.9 2.0	
職業	会社、商店、 官公庁などに勤務	14.7	73.6		8.9 0.8	8 632 人
別	主婦·主夫	11.7	75.1		12.0 0	.6 309 人
	無職	12.2	74.9		9.5	.8 263 人
	高松圏域	13.5	74.7		9.1 1.	1 746 人
	東讃圏域	14.8	71.8		1.6 11.3 2.	1 142 人
圏域別	小豆圏域	10.3	79.5		5.1 5.1	39 人
別	中讃圏域	12.6	74.1		10.3	3 398 人
	西讃圏域	16.1	71.2		18	0 205 人
_	3年未満	11.0	67.0		20.9	1 91 人
居住		18.1	67.8		11.1 0	.5 199 人
年数	10年以上~ 20年未満	12.1	76.3		8.2 0.	.9 232 人
別	20年以上	13.2	75.4		8.8	0 974 人

(2) 将来の住まいと介護サービスの利用について

間29 将	F来の住まいと介護サービスの利用について、どのよう	に考えていますか。 次の中から1つだけ
選ん	しでください。	
	※ ())内の割合はウェイトバックした値
[[回答者数=1,530】	
1	介護が必要になっても、できる限り、現在の住まい。	や地域に住み続けたい
		45.4%(45.3%)
2	ケア付き住宅(高齢者向けの各種サービスの利用が下	可能な住宅)に早めに住み替えたい
		11. 3% (11. 6%)
3	介護が必要になったときに、施設(特別養護老人ホー	ームなど)に入所したい
		30. 5% (30. 2%)
4	わからない	11.6%(11.8%)
5	その他	0.9%(0.9%)
(無	※ () 内の割合はウェイトバックした値 者数=1,530】 護が必要になっても、できる限り、現在の住まいや地域に住み続けたい 45.4%(45.3%) ア付き住宅(高齢者向けの各種サービスの利用が可能な住宅)に早めに住み替えたい 11.3%(11.6%) 護が必要になったときに、施設(特別養護老人ホームなど)に入所したい 30.5%(30.2%) 11.6%(11.8%)	

将来の住まいと介護サービスの利用について、「介護が必要になっても、できる限り、現在の住 まいや地域に住み続けたい」45.4%が最も高く、次いで「介護が必要になったときに、施設(特 別養護老人ホームなど)に入所したい」30.5%、「わからない」11.6%などとなっている。

ウェイトバック集計した値をみると、「介護が必要になっても、できる限り、現在の住まいや地 域に住み続けたい」45.3%が最も高く、次いで「介護が必要になったときに、施設(特別養護老 人ホームなど)に入所したい」30.2%、「わからない」11.8%などとなっている。



将来の住まいと介護サービスの利用について、

性別にみると、男女とも「介護が必要になっても、できる限り、現在の住まいや地域に住み続けたい」が最も高く、『男性』48.6%、『女性』42.2%で、これに「介護が必要になったときに、施設(特別養護老人ホームなどに)に入所したい」が『男性』30.0%、『女性』30.9%で続いている。

年齢別にみると、『20~29 歳』では「介護が必要になったときに、施設(特別養護老人ホーム などに)に入所したい」37.8%が最も高く、そのほかの年齢では「介護が必要になっても、でき る限り、現在の住まいや地域に住み続けたい」が3~6割台で最も高くなっている。

職業別にみると、いずれも「介護が必要になっても、できる限り、現在の住まいや地域に住み 続けたい」が3~5割台と最も高く、これに「介護が必要になったときに、施設(特別養護老人 ホームなどに)に入所したい」が続いている。

圏域別にみると、いずれも「介護が必要になっても、できる限り、現在の住まいや地域に住み 続けたい」が4~5割台と最も高く、これに「介護が必要になったときに、施設(特別養護老人 ホームなどに)に入所したい」が続いている。

居住年数別にみると、『3年未満』では「介護が必要になったときに、施設(特別養護老人ホームなどに)に入所したい」40.7%が最も高く、そのほかの居住年数では「介護が必要になっても、できる限り、現在の住まいや地域に住み続けたい」が3~5割台で最も高くなっている。

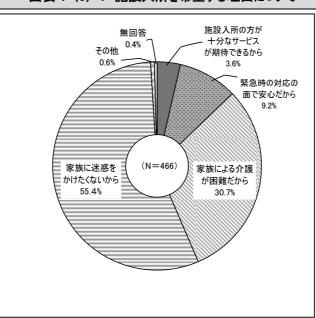
		図表 4-(2)-2 【将来	の住まいと介護サービ	スの利用について	ל]	
		(1) (2) (2) (2) (1) (2) (2) (2) (2) (2) (2) (2) (2) (2) (2	(3) が施設(特別養護老人ホームな (4) りに入所したい たときに、	(5) そ の 他	無回答	
別 年齢別 間 圏域別 居住年	凡 例					回答数
職業別	全体	45.4	11.3	30.5	11.6	3 1,530 人
	男性	48.6	8.1	30.0	12.6 0.1	1 701 人
	女性	42.2	14.3	30.9	10.9	; 797 人
	18~19歳	64.	3	7.1 14.3	14.3	14 人
	20~29歳	36.5	13.5	37.8	10.8	4 74 人
	30~39歳	33.3	24.1	21.6	20.4 0.6	6 162 人
齡	40~49歳	35.6	16.6	28.7	16.2 0.4	4 247 人
5IJ	50~59歳	42.2	12.0	33.3	12.4	249 人
	60~69歳	46.0	9.1	32.5	9.9 0.4	8 363 人
		58.2	4.4	30.8	6.4 0.3	3 390 人
	農林漁業	50.0	4.7	36.0	7.0 1.2	2 86 人
	商工業、サービス業、 自由業など	45.0	12.4	25.7	13.9) 202 人
業	会社、商店、 官公庁などに勤務	39.7	15.2	30.7	13.0 0.3	3 632 人
引	主婦・主夫	48.2	9.1	33.7	8.4 0.6	
	無職	54.0	6.5	28.1	11.4	263 人
	高松圏域	43.0	12.2	31.8	11.8 0.3	3 746 人
	東讃圏域	53.5	7.0	28.9	0.9	142 人
或	小豆圈域	53.8	7.7	25.6	12.8	39 人
別	中讃圏域	47.7	11.8	26.9	11.3 0.8	8 398 人
	西讃圏域	42.4	10.7	34.6	1.5	5 205 人
		25.3	7.6	40.7	16.5	91 人
È		33.7	20.6	25.1	17.1 35	199 人
年数	10年未満 10年以上~	41.8	12.5	29.3	15.5 0.	
別	20年未満 	50.3	8.7	30.8	9.1 0.5	000 T 000000000000000000000000000000000

(3)施設入所を希望する理由について

【問29て	ご「3」と答えた方にお聞きします】	
†問 7	施設入所を希望される理由は何ですか。次の中から1つだけ	選んでください。
	※()内の害	合はウェイトバックした値
(E	回答者数=466】	
1	施設入所の方が十分なサービスが期待できるから	3.6%(3.7%)
2	緊急時の対応の面で安心だから	9.2%(10.1%)
3	家族による介護が困難だから	30.7%(29.8%)
4	家族に迷惑をかけたくないから	55.4%(55.4%)
5	その他	0.6%(0.6%)
(魚	無回答)	0.4%(0.4%)

施設入所を希望する理由について、「家族に迷惑をかけたくないから」55.4%が最も高く、次いで「家族による介護が困難だから」30.7%、「緊急時の対応の面で安心だから」9.2%などとなっている。

ウェイトバック集計した値をみると、「家族に迷惑をかけたくないから」55.4%が最も高く、次いで「家族による介護が困難だから」29.8%、「緊急時の対応の面で安心だから」10.1%などとなっている。



図表 4-(3)-1 施設入所を希望する理由について

施設入所を希望する理由について、

性別にみると、男女とも「家族に迷惑をかけたくないから」が最も高く、『男性』47.6%、『女性』62.2%で、これに「家族による介護が困難だから」が『男性』35.2%、『女性』26.4%で続いている。

年齢別にみると、『18~19 歳』では「家族による介護が困難だから」、「家族に迷惑をかけたく ないから」が同率の 50.0%で、『70 歳以上』では「家族による介護が困難だから」 51.7%が最も 高く、そのほかの年齢では「家族に迷惑をかけたくないから」が 5~7割台で最も高くなってい る。

職業別にみると、『農林漁業』では「家族による介護が困難だから」、「家族に迷惑をかけたくないから」が同率の45.2%で高く、『無職』では「家族による介護が困難だから」52.7%が最も高く、そのほかの職業では「家族に迷惑をかけたくないから」が6割台で最も高くなっている。

圏域別にみると、いずれも「家族に迷惑をかけたくないから」が4~6割台で最も高く、これ に「家族による介護が困難だから」が続いている。

圏域別にみると、いずれも「家族に迷惑をかけたくないから」が4~6割台で最も高く、これ に「家族による介護が困難だから」が続いている。

居住年数別にみると、いずれも「家族に迷惑をかけたくないから」が5~7割台で最も高く、 これに「家族による介護が困難だから」が続いている。

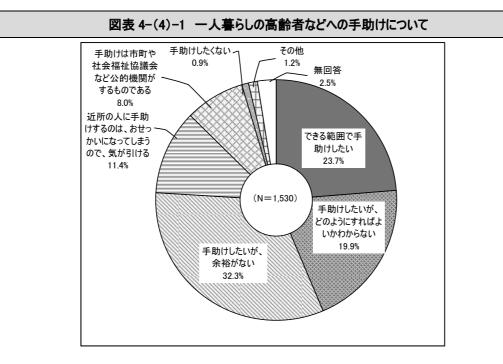
		図表	4-(3)-2	施設入所を行	帝望する理 (由について】				
		(1)から からが期待できる	(2) 心だから 対応の面で安	(だから 家族による介護が困難	(ないから 家族に迷惑をかけたく	(5) そ の 他	無回答			
	凡例]	回答数	
	全 体	3.6 9.2	30.7			55.4		0.4	466 ,	人
性	男性	5.2 11.0	35	5.2		47.6		0.5	210 .	Y
別	女性:	2.4 8.1	26.4			62.2		0.8	246 .	Y
	18~19歳		50.0			50.0			2,	Y
 年齢」-	20~29歳	3.6	28.6 3	.6		64.3			28 🤇	人
	30~39歳	8.6 5.7	8.6		77.1				35 ,	人
	40~49歳	4.2 12.7	29.6			52.1		1.4	71 .	人
יי ניכ	50~59歳	2.4 6.0	25.3		63	3.9	l l]1.2	83 ,	人
	60~69歳	4.2 11.0	25.4			58.5		0.8	118 ,	人
	70歳以上	2.5 5.0	51	.7		40.0]0.8	120 ,	Y
	農林漁業:	3.2 6.5	45.2	2		45.2]	31 .	Y
職	商工業、サービス業、 自由業など	.9 9.6	23.1		6	3.5]1.9	52 ,	Y
^峨 業	会社、商店、 官公庁などに勤務	5.7 12.9	20.1			60.3		1.0	194 .	Y
	主婦·主夫	1.0 3.8	33.7			60.6		1.0	104 .	<u>ک</u>
	無職	4.1 9.5		52.7		33	.8]	74 ,	<u>ک</u>
	高松圏域	3.0 7.6	31.2			57.8		0.4	237 🤇	Y
퐬	東讃圏域 2	2.4 7.3	36.6			51.2]2.4	41 .	Y
雪 域 引 -	小豆圏域	10.0	30.0			60.0			10 ,	Y
	中讃圏域(0.9 11.2	30.8			56.1		0.9	107 .	Y
	西讃圏域	11.3	2.7	25.4		47.9	8	2.8	71 ,	Y
	3年未満 2	2.7 8.1 10	.8		78.4				37 .	Y
居	3年以上~ 10年未満	4.0 16.0	22.0			56.0	8	2.0	50 ,	٨
牛数	10年以上~ 20年未満	7.4	27.9			64.7]	68 ,	Y
	20年以上	4.7 9.0	35.0			50.3		0.3	300 ,	٢

(4) 一人暮らしの高齢者などへの手助けについて

問30	地域で何らかの日常生活上の支払	爱を必要としている一人暮らしの福	高齢者などへの手助けに									
ついて、あなたの考え方に最も近いものはどれですか。次の中から1つだけ選んでください。												
※() 内の割合はウェイトバックした値												
ļ	【回答者数=1,530】											
-	できる範囲で手助けしたい		23.7%(23.4%)									
4	手助けしたいが、どのようにす	ければよいかわからない	19.9% (20.3%)									
3	手助けしたいが、余裕がない		32.3%(32.7%)									
4	近所の人に手助けするのは、お	させっかいになってしまうので、気	が引ける									
ļ			11.4%(10.7%)									
5	手助けは市町や社会福祉協議会	会など公的機関がするものである	8.0%(8.3%)									
6	手助けしたくない		0.9%(0.9%)									
1	その他		1.2%(1.1%)									
	無回答)		2.5%(2.7%)									
Ę	近所の人に手助けするのは、ま 手助けは市町や社会福祉協議会 手助けしたくない その他		が引ける 11.4%(10.7%) 8.0%(8.3%) 0.9%(0.9%) 1.2%(1.1%)									

一人暮らしの高齢者などへの手助けについて、「手助けしたいが、余裕がない」32.3%が最も高 く、次いで「できる範囲で手助けしたい」23.7%、「手助けしたいが、どのようにすればよいかわ からない」19.9%などとなっている。

ウェイトバック集計した値をみると、「手助けしたいが、余裕がない」32.7%が最も高く、次いで「できる範囲で手助けしたい」23.4%、「手助けしたいが、どのようにすればよいかわからない」 20.3%などとなっている。



一人暮らしの高齢者などへの手助けについて、

性別にみると、男女とも「手助けしたいが、余裕がない」が最も高く、『男性』33.8%、『女性』 31.4%で、これに『男性』では「手助けしたいが、どのようにすればよいかわからない」21.5%、 『女性』では「できる範囲で手助けしたい」26.1%で続いている。

年齢別にみると、『18~19 歳』では「手助けしたいが、どのようにすればよいかわからない」、 「手助けしたいが、余裕がない」が同率で最も高く、『60 歳以上』では「できる範囲で手助けし たい」が2~3割台で最も高く、そのほかの年齢では「手助けしたいが、余裕がない」が3~4 割台で最も高くなっている。

職業別にみると、『主婦・主夫』では「できる範囲で手助けしたい」が 33.3%で最も高く、そのほかの職業では「手助けしたいが、余裕がない」が2~3割台で最も高くなっている。

圏域別にみると、『東讃圏域』では「できる範囲で手助けしたい」、「手助けしたいが、余裕がない」が同率で最も高く、『小豆圏域』では「できる範囲で手助けしたい」が 35.9%で最も高く、 そのほかの圏域では「手助けしたいが、余裕がない」が2~3割台で最も高くなっている。

居住年数別にみると、いずれも「手助けしたいが、余裕がない」が3~4割台で最も高くなっている。

図表 4-(4)-2 【一人暮らしの高齢者などへの手助けについて】											
_		(1) できる範囲で手助けしたい	(すればよいかわからない)手助けしたいが、どのように	(3) 手助けしたいが、余裕がない	で、気が引ける(4おせっかいになってしまうの近所の人に手助けするのは、	ある(う会など公的機関がするもので手助けは市町や社会福祉協議	(6)手助けしたくない	(7) そ の 他	無回答		
	凡例									回答数	
	全 体	23.7		19.9		32.3		11.4	8.0 2.5	1,530 人	
性	男性	21.3		21.5		33.8		10.1	8.1 3.0	701 人	
別	女性	26.1		17.9		31.4		12.4	7.9	797 人	
	18~19歳	21.4	*	28.6			28.6	7.1	14.3	14 人	
	20~29歳	21.6		27.0			35.1	6.	8 8.1 1.4	74 人	
年齢別	30~39歳	13.0	21	.6		37.7		7.4 14	.8 2.5	162 人	
	40~49歳	12.6	22	.3		42.5		7.7	10.1 2.0	247 人	
	50~59歳	20.5		18.5		41.4		10.0	7.6	249 人	
	60~69歳	27.	5	20	.7	24.5		17.1	6.3 1.4	363 人	
	70歳以上		34.6		15.1	25	.4	12.1	5.4 6.2	390 人	
unternational	農林漁業	26.	7	20.	9	29	.1	12.8	5.8 2.3	86 人	
職	商工業、サービス業、 自由業など	24.8		15.3		37.1		10.4	5.9 3.5	202 人	
業別	会社、商店、 官公庁などに勤務	17.4		21.4		38.6		9.3	9.7	632 人	
	主婦·主夫		33.3		17.8	22	.7	15.2	6.8 3.6	309 人	
	無職	26.	6	20.	9	27.4		12.2	7.6 2.7	263 人	
	高松圏域	20.9		21.0		35.5		11.3	7.4	746 人	
圏	東讃圏域	28	.2	14.8		28.2		9.9	6 2.1 5.6	142 人	
国域別	小豆圏域		35.9		17.9		20.5	7.7 7.7	2.62.6 5.1	39 人	
	中讃圏域	26.	9	20.	4	27.9		12.1	9.0 2.3	398 人	
	西讃圏域	22.4	8	19.0		34.1		12.2	6.8 2.0	205 人	
Ē	3年未満	13.2	20.	.9		40.7		7.7	13.2 33	91 人	
居 住 年	3年以上~ 10年未満	17.6		23.6		38.7		7.5	9.5 2.0 1.0	199 人	
+数	10年以上~ 20年未満	20.7		23.7		31.5		9.9	11.6 1.3 0.9	232 人	
	20年以上	26.	9	17.8		30.8		12.8	6.3 0.9 3.5	974 人	

(5)認知症施策で関心のあることについて

問31 郬	8知症施策で関心のあることはどれですか。次の中からあてはまるものをす	べて選んでください。							
	※()内の割合はウェ	イトバックした値							
【回答者数=1,530】※回答数の多い順に並び替え									
1	認知症の予防に向けた取り組み	59.4% (59.6%)							
2	家族の身体的・精神的負担を減らす取り組み	59.4% (58.8%)							
3	認知症を治せる薬や治療法の開発	51.2% (51.6%)							
4	認知症のことを相談できる窓口・体制の充実	48.1% (47.4%)							
5	家族の仕事と介護の両立支援などを含めた経済的負担を減らす取り組	み							
		47.6%(47.6%)							
6	できるだけ早い段階からの医療・介護などのサポートを利用できる仕	組みづくり							
		46.1%(46.2%)							
7	認知症に関する正しい知識と理解の啓発・情報提供	43.9%(43.6%)							
8	認知症の人が利用できる介護施設の充実	39.9%(39.0%)							
9	認知症の人を地域で見守る体制の充実	28.7%(28.1%)							
10	悪質商法や詐欺的な勧誘による被害を防止するための取り組み	27.3%(27.3%)							
11	日常生活の中で必要となる財産管理などへの支援の充実	16.3% (16.2%)							
12	その他	0.1%(0.1%)							
(4	無回答)	2.2%(2.3%)							

認知症施策で関心のあることについて、「認知症の予防に向けた取り組み」59.4%と「家族の身体的・精神的負担を減らす取り組み」59.4%が最も高く、次いで「認知症を治せる薬や治療法の開発」51.2%、「認知症のことを相談できる窓口・体制の充実」48.1%などとなっている。

ウェイトバック集計した値をみると、「認知症の予防に向けた取り組み」59.6%が最も高く、次いで「家族の身体的・精神的負担を減らす取り組み」58.8%、「認知症を治せる薬や治療法の開発」 51.6%などとなっている。

図表 4-(5)-1 認知症施策で関心のあることについて

		回答数
全体	100.0	1,530 人
(1) 認知症の予防に向けた取り組み	59.4	909 人
(2)家族の身体的・精神的負担を減らす取り組み	59.4	909 人
(3) 認知症を治せる薬や治療法の開発	51.2	784 人
(4) 認知症のことを相談できる窓口・体制の充実	48.1	736 人
(5) 家族の仕事と介護の両立支援などを含めた経済 的負担を減らす取り組み	47.6	729 人
(6) できるだけ早い段階からの医療・介護などのサポー トを利用できる仕組みづくり	46.1	705 人
(7) 認知症に関する正しい知識と理解の啓発・情報提 供	43.9	671 人
(8) 認知症の人が利用できる介護施設の充実	39.9	610 人
(9) 認知症の人を地域で見守る体制の充実	28.7	439 人
(10) 悪質商法や詐欺的な勧誘による被害を防止するための取り組み	27.3	418 人
(11) 日常生活の中で必要となる財産管理などへの支援の充実	16.3	250 人
(12) その他	0.1	2 人
無回答	2.2	34 人
	ガニコ単位・(04)	

グラフ単位:(%)

認知症施策で関心のあることについて、

性別にみると、『男性』では「認知症の予防に向けた取り組み」60.3%が最も高く、『女性』では「家族の身体的・精神的負担を減らす取り組み」62.7%が最も高く、これに『男性』では「家族の身体的・精神的負担を減らす取り組み」56.3%、『女性』では「認知症の予防に向けた取り組み」58.7%で続いている。

年齢別にみると、『18~19歳』、『20~29歳』、『70歳以上』では「認知症の予防に向けた取り組み」が5~6割台と最も高く、そのほかの年齢では「家族の身体的・精神的負担を減らす取り組み」が6割台と最も高くなっている。

職業別にみると、『農林漁業』、『無職』では「認知症の予防に向けた取り組み」が5~6割台と 最も高く、そのほかの職業では「家族の身体的・精神的負担を減らす取り組み」が6割台と最も 高くなっている。 圏域別にみると、『中讃圏域』では「認知症の予防に向けた取り組み」が 64.6%と最も高く、 そのほかの圏域では「家族の身体的・精神的負担を減らす取り組み」が5~6割台と最も高くなっている。

居住年数別にみると、『20年以上』では「認知症の予防に向けた取り組み」が59.2%と最も高 く、そのほかの居住年数では「家族の身体的・精神的負担を減らす取り組み」が6割台と最も高 くなっている。

_															
		全体(人)	(1) 認知症の予防に向けも	(2) す取り組み・精神	(3) 認知症を治せる薬やさ	(4) 認知症のことを相談	(5) を含めた経済的負担+ の仕事と介護の	(6) 仕組みづくり ポートt	(7) 認知症に関する正し:	(8) の充実	(9) 充実の人を地域で日	(10) 悪質商法や詐欺的な	(1)日常生活の中で必要・	<u>(12)</u> そ の 他	無 回 答
	0見方】 単位=比率(%)		た 取 り 組 み	的負担を減ら	治 療 法 の 開 発	できる窓口・	を減らす取り	をから 利 用 で き る	い 知 識 と 理 解	きる介護施設	見 守 る 体 制 の	取 り 組 み る 被	実 と な る 財 産 管		
全体		1,530	59.4	59.4	51.2	48.1	47.6	46.1	43.9	39.9	28.7	27.3	16.3	0.1	2.2
性	男性	701	60.3	56.3	51.4	43.5	43.9	45.1	43.8	38.1	27.0	24.5	17.3	0.1	2.7
別	女性	797	58.7	62.7	51.1	52.4	51.1	46.7	44.3	41.9	30.7	29.7	15.6	0.1	1.6
	18~19歳	14	64.3	42.9	42.9	35.7	57.1	57.1	28.6	28.6	21.4	14.3	21.4	-	-
	20~29歳	74	66.2	64.9	60.8	41.9	50.0	44.6	47.3	29.7	23.0	32.4	14.9	-	1.4
年	30~39歳	162	61.1	64.8	53.7	45.7	50.6	48.8	43.8	36.4	27.8	32.1	15.4	-	1.9
齢	40~49歳	247	58.7	64.0	47.4	48.6	57.5	42.1	41.7	36.8	26.3	25.5	16.6	0.4	1.2
別	50~59歳	249	60.2	65.1	49.4	46.6	52.2	48.2	45.8	37.8	25.3	31.3	19.7	0.4	-
	60~69歳	363	61.2	65.3	52.3	51.8	48.8	44.9	46.0	44.4	33.3	26.7	16.3	-	1.1
	70歳以上	390	55.6	45.9	51.0	48.5	35.6	46.4	42.6	43.6	30.8	23.8	14.6	-	5.6
	農林漁業	86	62.8	50.0	52.3	44.2	44.2	47.7	46.5	43.0	32.6	18.6	17.4	-	1.2
	商工業、サービス業、 自由業など	202	59.4	62.9	45.5	48.5	52.0	41.1	39.6	42.1	28.7	33.7	17.3	0.5	2.5
職業	会社、商店、官公庁などに勤務	632	60.0	63.3	53.6	44.6	53.5	46.5	45.1	35.3	26.9	25.9	17.1	0.2	1.3
別	主婦·主夫	309	58.9	61.8	50.8	57.6	44.3	46.9	44.3	43.4	32.7	32.0	13.9	-	2.3
	無職	263	58.2	49.4	49.8	47.5	35.4	46.0	44.1	45.6	28.9	22.8	16.0	-	4.2
	高松圏域	746	59.4	59.9	52.5	49.5	48.4	47.9	44.1	39.1	30.0	29.6	17.3	-	1.9
	東讃圏域	142	52.1	56.3	55.6	48.6	48.6	50.7	44.4	34.5	26.1	23.9	14.1	-	2.8
圏域	小豆圏域	39	46.2	56.4	56.4	35.9	43.6	43.6	35.9	46.2	20.5	23.1	10.3	_	5.1
別	中讃圏域	398	64.6	58.8	48.0	48.0	47.2	44.0	44.7	43.0	28.9	27.1	17.8	0.3	2.3
	西讃圏域	205	57.1	61.5	48.8	45.4	45.9	41.0	42.4	39.0	26.8	22.4	12.7	0.5	2.4
	3年未満	91	62.6	63.7	54.9	44.0	51.6	48.4	44.0	38.5	33.0	29.7	13.2	-	-
居住		199	62.3	67.8	51.3	43.2	56.3	43.7	44.7	37.7	28.6	30.2	20.1	_	0.5
年数	10年以上~20年未満	232	56.9	61.2	48.3	44.0	53.4	46.6	45.3	33.2	28.9	25.4	16.4	0.4	1.3
別	 20年以上	974	59.2	57.4	51.6	50.8	44.3	46.0	43.7	42.5	28.7	27.0	15.9	0.1	2.8

図表 4-(5)-2 【認知症施策で関心のあることについて】

(6)高齢化が進行していく社会において、重要と思われる方策について

間32 🖉	?後も高齢化が進行していく社会において、あな	たが重要と思われる方策はどれですか。次の
中た	いらあてはまるものをすべて選んでください。	
		※() 内の割合はウェイトバックした値
[]	回答者数=1,530】※回答数の多い順に並び替え	
1	健康づくりや介護予防	59. 3% (58. 7%)
2	高齢者活躍の場の確保(活躍の場への誘導)	48.5% (48.8%)
3	住宅や交通などの住環境の充実	44.7% (44.6%)
4	介護サービス施設などの量的充実	43.6%(43.3%)
5	介護サービスの質の向上	41.6%(42.2%)
6	地域医療の充実	40.8% (40.1%)
7	地域で支え合う体制の充実	38.6%(38.7%)
8	認知症高齢者施策の推進	32. 5% (32. 3%)
9	災害時の援護体制の整備	28.2%(28.7%)
10	交通安全の確保	27.4%(29.1%)
11	高齢者虐待の防止	22.6%(23.2%)
12	犯罪被害の防止	19.9% (20.5%)
13	その他	1.4%(1.8%)
(集	無回答)	2.0%(2.0%)

高齢化が進行していく社会において、重要と思われる方策について、「健康づくりや介護予防」 59.3%が最も高く、次いで「高齢者活躍の場の確保(活躍の場への誘導)」48.5%、「住宅や交通 などの住環境の充実」44.7%などとなっている。

ウェイトバック集計した値をみると、「健康づくりや介護予防」58.7%が最も高く、次いで「高齢者活躍の場の確保(活躍の場への誘導)」48.8%、「住宅や交通などの住環境の充実」44.6%などとなっている。

		回答数
全体	100.0	1,530 人
(1)健康づくりや介護予防	59.3	907 人
(2) 高齢者活躍の場の確保(活躍の場への誘導)	48.5	742 人
(3) 住宅や交通などの住環境の充実	44.7	684 人
(4) 介護サービス施設などの量的充実	43.6	667 人
(5) 介護サービスの質の向上	41.6	637 人
(6) 地域医療の充実	40.8	625 人
(7) 地域で支え合う体制の充実	38.6	591 人
(8) 認知症高齢者施策の推進	32.5	497 人
(9) 災害時の援護体制の整備	28.2	431 人
(10) 交通安全の確保	27.4	419 人
(11) 高齢者虐待の防止	22.6	346 人
(12)犯罪被害の防止	19.9	305 人
(13) その他	1.4	22 人
無回答	2.0	30 人
		I

図表 4-(6)-1 高齢化が進行していく社会において、重要と思われる方策について

高齢化が進行していく社会において、重要と思われる方策について、

性別にみると、男女とも「健康づくりや介護予防」が最も高く、『男性』58.1%、『女性』60.0% で、これに「高齢者活躍の場の確保(活躍の場への誘導)」が『男性』47.6%、『女性』49.1%で 続いている。

年齢別にみると、『18~19歳』では「地域で支え合う体制の充実」、「介護サービスの質の向上」 64.3%が最も高く、『20~29歳』では「高齢者活躍の場の確保(活躍の場への誘導)」、「介護サー ビスの質の向上」51.4%が最も高く、そのほかの年齢では「健康づくりや介護予防」が5~6割 台と最も高くなっている。

職業別にみると、いずれも「健康づくりや介護予防」が5~6割台と最も高く、これに『農林 漁業』、『無職』では「介護サービス施設などの量的充実」が、『主婦・主夫』では「住宅や交通な どの住環境の充実」が、そのほかの職業では「高齢者活躍の場の確保(活躍の場への誘導)」が続 いている。 圏域別にみると、いずれも「健康づくりや介護予防」が5~6割台で最も高く、これに『東讃 圏域』では「介護サービス施設などの量的充実」が、『小豆圏域』では「地域医療の充実」が、そ のほかの圏域では「高齢者活躍の場の確保(活躍の場への誘導)」が続いている。

居住年数別にみると、『10年以上~20年未満』では「高齢者活躍の場の確保(活躍の場への誘 導)」が 56.0%で最も高く、そのほかの居住年数では「健康づくりや介護予防」が5~6割台で 最も高くなっている。

			(1)	(2)	(3)	(4)	(5)	(6)	(7)	(8)	(9)	(10)	(11)	(12)	(13)	
)見方】 4位=比率(%)	全体(人)	健康づくりや介護予防	(活躍の場への誘導)高齢者活躍の場の確保	の充実 住宅や交通などの住環境	量的充実 介護サービス施設などの	介護サービスの質の向上	地域医療の充実	実 地域で支え合う体制の充	認知症高齢者施策の推進	災害時の援護体制の整備	交通安全の確保	高齢者虐待の防止	犯罪被害の防止	その他	無回答
全体		1,530	59.3	48.5	44.7	43.6	41.6	40.8	38.6	32.5	28.2	27.4	22.6	19.9	1.4	2.0
性	男性	701	58.1	47.6	43.2	44.4	38.7	40.1	37.7	30.4	25.7	27.1	21.3	19.8	1.3	2.3
別	女性	797	60.0	49.1	46.2	43.2	44.7	41.4	39.6	34.3	30.7	28.2	24.0	20.3	1.6	1.8
	18~19歳	14	57.1	57.1	35.7	50.0	64.3	28.6	64.3	14.3	50.0	21.4	50.0	28.6	7.1	-
	20~29歳	74	48.6	51.4	50.0	41.9	51.4	36.5	35.1	35.1	32.4	50.0	21.6	29.7	5.4	1.4
年	30~39歳	162	60.5	56.2	45.1	40.1	42.0	34.0	34.0	31.5	25.3	42.6	25.9	18.5	3.7	1.9
	40~49歳	247	55.5	54.3	46.6	39.7	39.7	36.4	34.0	25.1	29.6	25.1	22.7	19.8	1.2	1.2
	50~59歳	249	59.0	51.4	46.6	45.8	42.6	41.0	35.7	31.7	27.7	24.5	22.5	19.3	0.8	0.4
	60~69歳	363	61.2	46.8	46.3	46.6	43.5	44.9	41.3	33.6	27.8	20.9	20.4	19.6	0.8	1.9
	70歳以上	390	61.0	40.0	40.3	43.8	38.5	43.6	42.8	36.9	28.2	27.4	22.8	19.7	0.8	3.8
	農林漁業	86	57.0	33.7	33.7	44.2	29.1	39.5	39.5	39.5	22.1	19.8	17.4	15.1	1.2	2.3
職	商工業、サービス業、 自由業など	202	59.9	49.0	47.0	38.1	46.5	39.1	37.6	31.2	25.2	22.8	25.2	22.3	1.0	2.5
^戦 業 別	会社、商店、官公庁 などに勤務	632	57.9	55.5	46.2	43.7	41.5	38.4	35.1	29.9	27.8	30.7	22.6	18.4	1.7	1.3
лı	主婦·主夫	309	63.1	44.7	46.0	41.7	41.1	42.1	45.0	36.6	32.7	25.6	23.0	23.3	1.9	2.6
	無職	263	56.7	40.3	41.8	50.6	44.5	46.8	41.1	32.7	28.5	29.7	22.4	20.5	0.8	2.7
	高松圈域	746	59.1	49.9	45.3	42.8	41.6	42.2	38.1	32.0	28.3	26.1	23.9	19.8	1.3	1.9
圏	東讃圏域	142	54.9	45.1	43.7	45.8	40.1	42.3	40.1	35.2	29.6	26.8	21.1	21.1	1.4	2.1
域	小豆圏域	39	53.8	28.2	41.0	46.2	43.6	48.7	25.6	30.8	41.0	15.4	12.8	17.9	5.1	5.1
別	中讃圏域	398	61.3	48.7	46.0	46.0	43.2	36.2	39.7	31.4	26.4	31.2	22.6	22.6	1.0	1.8
	西讃圏域	205	60.0	49.3	41.5	40.0	39.5	42.4	40.0	34.6	27.8	27.3	21.0	14.6	2.0	2.0
	3年未満	91	64.8	52.7	44.0	39.6	44.0	27.5	39.6	38.5	28.6	39.6	23.1	27.5	5.5	-
居住	3年以上~10年未満	199	63.3	58.8	48.2	47.2	43.7	37.2	36.2	29.1	26.6	33.2	25.1	19.1	3.0	0.5
年数日	10年以上~20年未満	232	53.9	56.0	48.7	40.1	40.5	33.2	38.4	26.3	25.0	22.4	24.1	19.0	0.4	1.3
別	20年以上	974	58.9	44.0	43.2	44.4	41.7	44.7	39.3	34.1	29.5	26.8	21.9	19.9	1.0	2.6

図表 4-(6)-2 【高齢化が進行していく社会において、重要と思われる方策について】